

# 人形劇カーニバル'98

# みんなの笑顔が輝いて



▲熱演を終えてほっとする児童

暑い夏の太陽と共に、人形劇がやってきました。二十回の節目としての「人形劇カーニバル'98飯田」が、世界人形劇フェスティバルとの同時開催で、八月二日から八日の日程で行われ地域内が賑わいました。

童丘地区公演は、夏の暑さに負けない観客の熱気の中、各分館ごとの会場で行われました。

アマチュア劇団では、地元の子ども達による上演が行われました。駄科公民館での緑ヶ丘中学校人形劇部『みどり座』と、童丘小学校体育館での、童丘人形劇クラブ『ぎふちよう』です。

『みどり座』は二十人以上の生徒で構成された劇団で、地区公演は初めてでした。会場からあふれるほどの観客の中で、さぞ緊張したと思いますが、声も大きく出ているなど集中して上演できました。幕の中では、人形劇団『とんと』の皆さんが生徒達に指導している姿がありました。技術の交流ができ、これこそ人形劇の名前の通り一人の劇団です。

複数の人形を動かしながら、それぞれの人形の台詞を言ったり、幕間ではギターを弾いたり、コマを廻したりして、会場の子供達とコミュニケーションをしながら

プロの劇団の皆さんも、それぞれ持っておられる技術とアイデアを駆使した劇を上演してくれました。童丘公民館での公演は、『西川楨一おひとり座』で、名前の通り一人の劇団です。複数の人形を動かしながら、それぞれの人形の台詞を言ったり、幕間ではギターを弾いたり、コマを廻したりして、会場の子供達とコミュニケーションをしながら

今年度のカーニバルは、盛り上げました。その芸の奥深さには感心させられました。

地区公演を行う為に、各分館で文化部長の皆さんを中心にして実行委員会が組織されました。各自仕事をしながら、事前の準備、当日の進行、会場整理と忙しかったです。けれどその努力なくして、カーニバルはありえな

交流会は、盛大に開かれました。分館によって夜の遅くまで行われるなど、劇人の皆さんと酒を酌み交わしながら、親交が深められました。

今回はどこも多くの観客が集まりました。童丘地区公演全体で千五百二十九名の観客数を記録しました。これはここ数年の一・五倍もの数で、もちろん過去最高です。特に休日となった公演会場では、四百五十人もの来場者がありました。又、ワッペンの販売数も七百五十一枚を記録するなど、今回のカーニバルへの関心の高さを示しています。

飯田市桐林共和会(今村文彦代表)はこのほど、さくらの愛護、植栽その他に著しい功績があり、他の模範とされる団体として、長野さくらの会(大日方英雄会長)本年度総会の席上で、「さくら功労者」表彰を授賞しました。

桐林共和会は、明治二十一年設立の歴史ある団体。会員は、桐林区に住所を置く二十歳から三十四歳の青年六十余名。昭和三十一年から、さくらで有名な万寿山公園の整備を実施して

文彦さんは、「マレット」でもでき、地域の方々を親しんで利用していただきたいと思います」と話してくださいます。

本年度も年四回の作業が計画され、八月二十三日には残暑厳しい中で、老人クラブの方々や万寿山の下草刈りが行われました。万寿山に響きわたる草刈り機の音、額に汗して万寿山全体の草刈り作業が黙々と熱心に進められました。

今年度共和会会長の今村

今年度のカーニバルは幕を閉じましたが、来年以降については新たな形での開催が伝えられています。

どのようなかはまだわからないのですが、カーニバルの原点を忘れないでほしいです。その原点とは、やはり人形劇を待っている子供達、そしてその子供達の笑顔ではないでしょうか。来年も、みんなの輝くような笑顔が見られることを期待します。



発行所 飯田市童丘公民館  
編集人 童丘公民館広報委員会  
印刷所 龍共印刷株式会社  
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,842人
男子	3,356人
女子	3,486人
世帯数	2,062戸
(10年8月末現在)	

## 地道な努力が認められ 桐林共和会 長野さくらの会から表彰授ける

文彦さんは、「マレット」でもでき、地域の方々を親しんで利用していただきたいと思います」と話してくださいます。

本年度も年四回の作業が計画され、八月二十三日には残暑厳しい中で、老人クラブの方々や万寿山の下草刈りが行われました。万寿山に響きわたる草刈り機の音、額に汗して万寿山全体の草刈り作業が黙々と熱心に進められました。

今年度共和会会長の今村



## 盛土・道路整備すすむ 時又 島地域

天竜川治水対策事業の盛土工事が進むなか、今年に入り二十八メートル道路の建設が始まり、だんだん形が見えはじめています。

この道路は、主として県道上川路大明神原線の付け替え工事として行われており、完成後は桐林の国道一五号線から治水盛土地域を通り、三遠南信自動車道を継ぐ道路となります。

ちなみに二十八メートル道路という、リング並木が三メートルというところなので、それより少し狭いくらいの道幅です。

現在、久米川に新しく架ける橋の橋脚部が完成しており、道路部分では吉川工業のプラントがあった所から、県道時又中村線の駒沢川に架かる橋付近までの間

が、盛土と舗装が行われ幅員八メートル位で暫定的に通行することができそうです。

次に、平成九年三月から始まった童丘盛土面整備は、八月一日現在で全体の六割の工事が終わりました。田んぼや畑が埋め立てられた

平成十四年の完成を目指して、今年度も十五万立方メートルの盛土工事が行われる予定です。

治水盛土地域は、これからは、一日も早く災害の起こらない、みんなが住みやすい地域になってほしいものです。

和歌山では地域が、新潟では職場が、東京では学校が、そして県内では市民が狙われた。

毒入りカレー事件から始まった一連の毒物混入事件は、青酸入りウーロン茶を飲んだ男性が死亡し、無差別殺人という局面を迎えた。卑劣な犯行の連鎖は、いったいいつになったら断ち切れるのだろうか。

県内だけでも「変な味がした」「ペットボトルのキャップが緩くなっていた」といった届け出が、事件以後ほぼ毎日出ている。市民の不安がまだ収まっていない実態を伺わせている。

そんな最中に起きた、中学校の女子生徒がクレゾール入りの小瓶を「やせ薬」と偽って数十人に郵送し、それを一人の男子生徒が飲んでしまった事件は、まだ記憶に新しい。その事件を起した女子生徒が、警官の調べに対し「まさか飲むとは思わなかった」と答えている。おそらく本当の気持ちだろう。特に問題もなく、ごく普通の生徒だったことから、一連の事件に接触された可能性が高い。さらにはこの事件が、他の事件を誘発させる結果となっていました。

学校の現場では、注意を呼び掛け指導するなかで、「疑え、という指導は偏見の助長にもつながりかねないが、命が一番大事」とジレンマを考へながらの指導が行われているようだ。

犯人が捕まらないことが一番の原因だが、背景には社会が豊かになるにつれて失われたモラルや、人々の思考を後ろ向きにしている今の社会の暗さがあるのではないだろうか。



和歌山では地域が、新潟では職場が、東京では学校が、そして県内では市民が狙われた。

毒入りカレー事件から始まった一連の毒物混入事件は、青酸入りウーロン茶を飲んだ男性が死亡し、無差別殺人という局面を迎えた。卑劣な犯行の連鎖は、いったいいつになったら断ち切れるのだろうか。

県内だけでも「変な味がした」「ペットボトルのキャップが緩くなっていた」といった届け出が、事件以後ほぼ毎日出ている。市民の不安がまだ収まっていない実態を伺わせている。

そんな最中に起きた、中学校の女子生徒がクレゾール入りの小瓶を「やせ薬」と偽って数十人に郵送し、それを一人の男子生徒が飲んでしまった事件は、まだ記憶に新しい。その事件を起した女子生徒が、警官の調べに対し「まさか飲むとは思わなかった」と答えている。おそらく本当の気持ちだろう。特に問題もなく、ごく普通の生徒だったことから、一連の事件に接触された可能性が高い。さらにはこの事件が、他の事件を誘発させる結果となっていました。

学校の現場では、注意を呼び掛け指導するなかで、「疑え、という指導は偏見の助長にもつながりかねないが、命が一番大事」とジレンマを考へながらの指導が行われているようだ。

犯人が捕まらないことが一番の原因だが、背景には社会が豊かになるにつれて失われたモラルや、人々の思考を後ろ向きにしている今の社会の暗さがあるのではないだろうか。

# 命の尊さを学ぶ

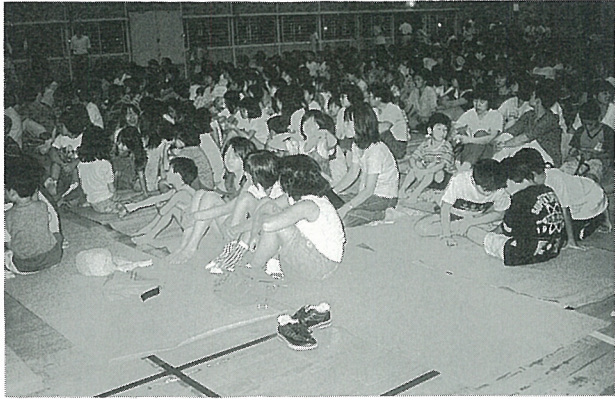
## 市民大学講座—映画鑑賞会

第二十回記念の竜丘地区市民大学講座第一講は、夜になってもまだむし暑かった九月五日土曜日、小学校体育館で、午後七時から始まりました。阪神・淡路大震災のアニメを通し、人々とのきずなを改めて考えさせられました。

市民大学講座というところ、なかなか参加しづらいという方もいるかもしれませんが、今回は小学校PTAとの共催により、映画鑑賞会が行われました。PTAからの推薦もあり、アニメ映画「地球が動いた日」を見ました。

参加者五百四十名余と、最近の市民大学講座では記憶にない程の参加者で体育館は満員でした。

この映画は、一九九五年一月十七日未明に発生した「阪神・淡路大震災」をアニメ化されたもの



▲ギッシリ満員の会場

「地球が動いた日」を見た。何変わりもない普通の生活の中から、家、家族そして今までの生活すべてを一瞬で失ってしまい、食べるところがない、水がない、住むところがない、そして一月という寒さの中での避難生活など当時の様子が、ニュースで報道されたものでした。何変わりもない普通の生活の中から、家、家族そして今までの生活すべてを一瞬で失ってしまい、食べるところがない、水がない、住むところがない、そして一月という寒さの中での避難生活など当時の様子が、ニュースで報道されたものでした。

参加者のおよそ六割は子どもたちでした。防災の日

### 夏の一日を

#### さわやかな高原で

#### —公民館委員研修旅行—

去る七月二十日、公民館委員研修旅行が行われました。例年この研修旅行は年度末に行われてきましたが、委員間の親睦、交流が目的の一つでもあるので、今年度は早期に実施すべく計画がたてられました。

梅池自然園は日本でも有数の高層湿原で、他に類を見ない高山植物の宝庫として有名です。

ロープウェイでいっきに標高千九百メートルまで上がると、そこには広大なお花畑が広がっているわけですが、あいにくの霧雨とガスで視界が悪く残念でしたが、湿原を守る為の手作りの木道を歩きながら自然保護の大切さを痛感して下山しました。

その後、木崎湖畔のゆるぶる木崎湖で昼食と温泉タイムをとりました。

午後からは大町市内の博物館巡りで、ヘンリーミラー美術館の見学をしました。

県内は全国的に見ても美術館が多いわりに、こういう機会がないと見れないのですが、学芸員の説明を聞きながら見学するのは初めての、良い経験になりました。

委員の壁を越えて交流し

たりの月日がたつにつれ記憶が薄れがちです。この地区も過去には水害など大きな被害を受けています。

もしもの時に備えて、常日頃から家族や地域での取り組みを改めて考えてみたいものです。



▲ヘンリーミラー美術館にて

## 高まるダイオキシンへの不安

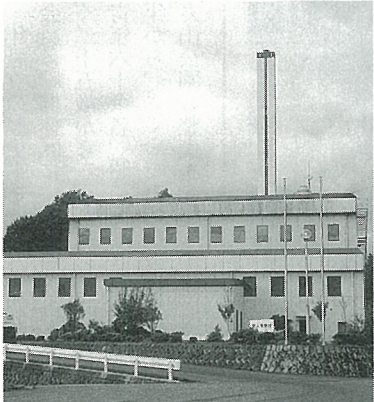
### 桐林クリーンセンター附近で調査

飯田行政組合・飯田環境センターでは、七月二十八、二十九日に調査した桐林クリーンセンター周辺など土壌ダイオキシン類測定分析結果を報告。土壌中のダイオキシン濃度については国が基準値などを定めていないため、現時点での濃度を評価することは極めて難しい。

報告によると、竜丘では四か所を実施。同センターは一グラム中の毒性等価濃度(TEQ)六・四ピコグラム(ピコは一兆分の一)

飯田行政組合・飯田環境センターでは、七月二十八、二十九日に調査した桐林クリーンセンター周辺など土壌ダイオキシン類測定分析結果を報告。土壌中のダイオキシン濃度については国が基準値などを定めていないため、現時点での濃度を評価することは極めて難しい。

今回の調査は、ダイオキシン削減に向けごみ処理の広域化の必要性が高まる中、西部衛生施設組合(阿智村、清内路村、浪合村、平谷村)と大鹿村が桐林のクリーンセンターを訪れ、「小規模の焼却炉建設が厚生省の指導で認められなくなり、窮地に陥り広域の新しい施設ができるまで桐林のクリーンセンターで引き受けて頂きたい」と飯田衛生施設組合と地元竜丘



桐林のクリーンセンターで調査

## 『続々・丘の語部たち』

### —とぼしき道を心豊かに—

『丘の語部たち』が刊行されます。第一集「古老が語る竜丘」第二集「語りつぐ竜丘の記録」に続き、『丘の語部たち』とぼしき道を心豊かに」がいよいよ出版の運びとなりました。

物の無かった時代にも、力強く、明るく生き抜いた貴重な体験談が、隣の伯父さんや、近所のお姉さんの口から、親しみやすく語られています。

昭和初期、竜丘の人口は約四千五百人、平成十年には約七千人という大所帯になっていきます。

竜丘に生まれ育った者、竜丘に希望を抱いて移り来た人。古きも新しきも共に手を携えて、大きなうねりとなって進んで行く、心の融和の一つとして、また可愛いお子さんやお孫さんに貴重な故郷教材として、ぜひ一家に一冊お備え下さい。

## 親子で水辺に親しむ

### 天竜川水生生物調査実施

建設省天竜川上流工事事務所では、毎年天竜川水生生物調査を実施しています。これは河川の水質状況を知らうとするもので、学生や一般の方の参加により、生物や水辺に親しみながら河川の水質保全や、河川愛護思想などの普及啓発を目的としたもので、昭和五十九年から実施し今年で十五回目です。

竜丘地区では、公民館事業の「虫に学ぶ地域環境講座」の一環として取り組み五回目となります。この講座は、身近に生息している生き物や植物に触れ親しみながら、環境問題を身の回りから学習しようと、平成二年に第一講が開かれました。以後現在に至るまで、水質調査、ギフトチョコの食

伊賀良南自治会にごみ処理の受託を申し入れた。これに対する回答を検討する中で、今回の土壌調査を実施することとなり、現在その結果報告会を地元で行っています。

当日は、「親子の広場」も兼ねていたために、親子で参加者が目立ちました。川辺の涼しい風を感じながらの採取作業では、張りきれぬの小学生も見られました。参加した子どもたちからは、「きれいな水に住む生き物が多くてうれしかった」、「天竜川の水を飲み水として使っている地域もあると聞きびっくりした」などの声がかげられました。また、



▶虫もへつちやら

## 大激戦

### 竜丘綱引き大会

去る六月二十一日、竜丘綱引き大会が竜丘小学校体育館において行われました。

男子十九チーム、女子二十チーム、合計三十九チームの総勢四百四十名が、男女それぞれ四ブロックに分かれ、常会対抗一本引きの綱引きが始まりました。

女子は制限時間一杯の白熱した試合が多く、大いに盛り上がりました。三つ巴戦もあり、全ブロック最後まで結果が分らない程の大混戦の末、駄科下平中央常会の優勝となりました。男子の決勝リーグを全勝した上川路宮の前常会は練習



などでは行わなかった様ですが、「チーム全員の気が合ったから勝った」と話してくれました。

頭脳の指揮者と体力の選手、皆の息を合わせゼリゼリと、また一気綱を引かないでしようか。